

子ども・若者への自立支援の推進

- ◎家庭環境の不安定さなどの要因から様々な課題を抱え、学習意欲の低下、学力の不足、高校進学を断念、全日制ではなく定時制や通信制への進学、将来の見通しがないまま高校を中退 といったケースが少なくない。
- ◎進学したものの、社会性の欠如やコミュニケーション能力の未熟さなどから、自らの将来を描くことができず、高校卒業後も漫然とアルバイトなどの不安定な生活を送っている状況もある。

⇒貧困の連鎖、生活保護の受給期間の長期化

本市の高校進学率の状況（25年3月）

	高校進学率	全日制進学率
一般世帯	98.70%	87.60%
生保世帯	92.30%	51.30%

「貧困の連鎖」発生率 25.1%

（関西国際大学道中隆教授による平成18年度調査）

事業着手当時の南区では44%

関係機関との連携と

子ども・若者支援に関する取組について

子ども若者



- ▶ 全日制高校などへの進学を促進、ひきこもりや中退にならないよう高校就学の維持、進路についての支援
- ▶ ありのままでいられる居場所を確保し、学習支援・学び直しの支援を行うとともに、社会性や他者との関係を育む支援や就労支援などを推進

中学生～若者(30歳代)までの継続的な支援

きっかけ：平成21年7月に、さがみはら若者サポートステーションが開設

実施経過 ◎同年10月に、さがみはら若者サポートステーションを運営

しているNPO法人に委託し、若者自立支援事業を開始

◎平成22年8月に、「若者すだち支援事業」として、中学3年生への学習支援を開始

◎3区に拡充し、24年度から両事業を統合して実施

実施内容

資料6-2のスライドP35～P50

就労体験・社会参加等支援事業

◎リーマンショック以降における生活保護世帯「稼働年齢層」の増加

◎抱えている様々な課題（複合的）

◎自らの力では、なかなか就労に結びつかない

⇒就労意欲の低下、自信の喪失（更に自信がない）
地域づくりや人・社会との関わりが希薄



- 個々の状況に合った支援を きめ細かに寄り添い
- 社会との関係を結びなおす、自信を取りもどす ために
地域との協働による 社会的な居場所づくり

実施内容

資料6-2のスライドP15～P34

関係機関との連携と 子ども・若者支援に関する取組について

まとめ

まとめ

- 今後の取り組みに向けて
- 成果・評価
- 最後に